

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	英語Ⅱ					学年	2		
講師名	日野 忠大			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。また医療従事者として、人体の部位の英単語及び医療的な英会話を身に付ける。									
講 義 内 容	1	海外の救急・教科書紹介							
	2	日常の英単語・発音							
	3	日常の簡単な英会話							
	4	身体部位の英単語・発音							
	5	医療英会話							
	6	患者との英会話							
	7	英語映画ビデオから会話を学ぶ							
	8	まとめ							
	9								

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	シミュレーション実習Ⅱ					学年	2
講師名	専任教員	時間数	360	単位数	8	コマ数	180
教科目標 救急隊員の責務、心構え、知識の向上を実技及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。また、MCの意味を理解する。さらに近年のプレホスピタルケアの処置拡大に伴う高度化した救急資機材の機能や特性を把握し、取扱いの習熟、保守管理を含めた手技を実習を通して学ぶ。							
講 義 内 容	1～8	観察(疾患) 脳・神経系、呼吸器系、循環器系					
	9～30	観察(外傷) JPTECの活動(初期評価・全身観察・車内活動・継続観察・詳細観察)					
	31～40	JRC蘇生ガイドランによる心肺蘇生法(乳児、小児、成人の気道確保)					
	40～47	用手による気道確保とBVM法による人工呼吸					
	48～58	異物除去法(マギール鉗子、喉頭鏡、背部叩打法(乳児、小児、成人))					
	59～63	酸素投与方法 (O2マスク、カヌラ、ベンチュリーマスク、気管切開用マスク)					
	64～75	チュービング法(LM、TwowayTyube、気管内挿管、気管切開用チューブの取扱い)					
	76～90	静脈路確保法					
	91～120	訓練礼式(各個訓練・小隊訓練)					
	121～130	隊活動訓練(隊員間の連携・情報)					
	131～140	徽章式研究発表訓練(気管挿管・トリアージ・静脈路確保確保・JPTEC・内因性疾患)					
	141～159	除細動(心停止をきたす致死的不整脈)心室細動と心室頻拍の鑑別					
	160～170	除細動(心停止をきたす致死的不整脈)包括化指示による除細動					
	171～180	病院実習前授業(ストレッチャー・心電図・除細動器の取り扱い・清潔操作など)					

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		単位認定		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	一般知能・一般知識Ⅱ					学年	2
講師名	大室 英幸、田村 和香子	時間数	90	単位数	6	コマ数	45

教科目標

将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を学ぶ。

講 義 内 容	1～7	社会科学 政治(国会・内閣・人権など)経済(市場経済・金融と財政など)
	8～14	人文科学 日本史・世界史・地理・文学・芸術など
	15～21	判断推理 集合・論理・位置関係など
	22～28	数的推理 方程式・不等式・整数・図形など
	29～35	文章理解・資料解釈 現代文・古文・英文・数表・グラフなど
	36～42	適性試験 適性・作文など
	43～45	自然科学 物理・化学・生物・地学など

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	オープンセサミを使用する 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	ショック・循環不全					学年	2
講師名	境 純平	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

生命維持に重要な「ショック・循環不全」に対し、分類とその判断方法を知る。
 ショックに伴い起こる生体反応、特に体液の移動による補整を理解する。
 血圧低下に対し交感神経およびカテコラミンの働きを理解する。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	総論～定義と概念、種類と分類
	2	総論～病態、ショックの判断
	3	総論～各種ショックの判別、緊急度・重症度の判断、各種ショックの共通の観察と処置
	4	循環血液量減少性ショック～発生機序、循環動態の変化、生体反応、体液変動
	5	循環血液量減少性ショック～原因疾患、症候、現場活動、輸液
	6	心原性ショック～原因疾患と発生機序、循環動態
	7	心原性ショック～症候、現場活動
	8	心外閉塞・拘束性ショック～原因疾患と発生機序
	9	心外閉塞・拘束性ショック～症候
	10	心外閉塞・拘束性ショック～現場活動、輸液
	11	血液分布異常性ショック～種類と発生機序
	12	血液分布異常性ショック～症候
	13	外傷の病態生理 侵襲への反応 循環動態、炎症性メディエータ
	14	外傷の病態生理 侵襲への反応 代償反応の破綻 急性期後の障害
	15	外傷の病態生理 外傷に伴うショック 出血性ショック 非出血性ショック
	16	

評価方法		終講試験など	
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	化学損傷					学年	2	
講師名	金沢医科大学病院医師、中田 敏弘		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
化学損傷の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。								
講 義 内 容	1	原因と病態						
	2	化学損傷の特徴						
	3	症状と処置						
	4	皮膚所見の特徴						
	5	汚染衣服の除去						
	6	洗浄						
	7	中和剤						
	8	搬送時の注意点						
	9							

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	観察					学年	2
講師名	金沢医科大学病院医師	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

救急医療における所見の把握・検査・処置方法・救急医療体制を中心に、現場観察での重要観察ポイントを学ぶ。

講 義 内 容	1	救急活動の基本
	2	初期評価と対応
	3	2次評価と対応
	4	外見の観察
	5	バイタルサイン関連事項の観察
	6	神経学的所見の観察
	7	観察法の基本
	8	皮膚の観察
	9	頭部・顔面・頸部の観察
	10	胸部の観察
	11	腹部の観察
	12	骨盤・四肢の観察
	13	緊急度と重症度
	14	判断の基準
	15	判断後の対応
	16	

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	消化器官					学年	2
講師名	三戸 浩平	時間数	30	単位数	2	コマ数	15
教科目標 1～7は解剖生理 8～15は症候・病態 を中心に理解する。							
講 義 内 容	1	消化管の解剖(1年生の復習)					
	2	消化管の役割					
	3	口腔・咽頭 誤飲と誤嚥					
	4	食道 胃					
	5	小腸 膵液 胆汁					
	6	大腸 肝臓 門脈					
	7	膵臓					
	8	11. 腹痛 A. 発生機序 B. 原因疾患 C. 部位 D. 既往歴					
	9	F 緊急度・重症度の判断 G 現場活動					
	10	12. 吐血・下血 p775 4. 消化系疾患(B 歯・口腔疾患まで)					
	11	C 食道疾患 1. 食道静脈瘤破裂 2. マロリーワイス 3. 特発性食道破裂					
	12	D 胃・十二指腸疾患 1. 胃・十二指腸潰瘍 2. 急性胃粘膜病変 3. 急性胃腸炎 4. アニサキス					
	13	5. 胃がん E 腸疾患 1. イレウス 2. 上腸間膜動脈閉塞症 3. ヘルニア嵌頓					
	14	4. 急性虫垂炎 5. 大腸穿孔 6. 大腸憩室炎 7. 虚血性大腸炎 8. 大腸がん					
	15	9. IBD 10. 痔核 11. 急性腹膜炎 F 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患					
	16						

評価方法		終講試験など		
評価基準	新GPA 新評価A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	体液管理					学年	2		
講師名	三戸 浩平			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
血液・体液の解剖生理と主な疾患の症状、救急処置などを中心に学ぶ。									
講義内容	1	血液・免疫系～血液、血球、血漿、骨髄の構造と機能							
	2	血液・免疫系～脾臓、止血と凝固、止血と凝固、免疫							
	3	血液・免疫系～総論、血液疾患、免疫疾患							
	4	代謝障害～糖質・脂質・蛋白質・の代謝異常、体液と電解質異常、酸塩基平衡・内分泌異常							
	5	その他の代謝異常							
	6	溺水～病態生理、観察と処置							
	7	熱中症～疫学、病態生理、観察、処置、搬送時の注意							
	8	偶発性低体温～発生機序と病態生理、観察、処置							
	9								

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	中毒/アレルギー					学年	2	
講師名	若山 博文、金沢医科大学病院医師		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
中毒／アレルギーの病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。								
講 義 内 容	1	中毒物質と中毒経路						
	2	中毒の病態生理と観察・処置						
	3	医療品中毒						
	4	農薬中毒、工業薬品中毒						
	5	ガス中毒、アルコール中毒						
	6	自然毒中毒						
	7	家庭用品中毒、覚醒剤中毒						
	8	アレルギーの病態生理と観察・処置						
	9							

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	頭部・頸椎損傷					学年	2		
講師名	北海道大学病院医師			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
頭部・頸部損傷の病態生理とJPTECに基づく観察、重症度判断、処置を中心に学ぶ。									
講 義 内 容	1	ロードアンドゴーの概念 ゴールデンアワーとトラウマバイパス							
	2	状況評価、感染防御、現場評価							
	3	初期評価 全身観察							
	4	詳細観察と継続観察 頸椎固定と全脊柱固定							
	5	頭部の解剖生理 一次損傷と二次損傷							
	6	脳浮腫、頭蓋内圧亢進							
	7	脳ヘルニア、頭蓋内出血 頭蓋骨骨折、頭蓋底骨折 脳振盪、脳挫傷、反衝損傷							
	8	頭部外傷の判断と処置							
	9								

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	泌尿器・生殖器					学年	2		
講師名	三瓶 泰子			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
泌尿生殖器の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。									
講 義 内 容	1	泌尿器系 構造と機能							
	2	生殖器系 構造と機能							
	3	血尿の原因と病態生理							
	4	観察と判断							
	5	症状の特徴							
	6	泌尿器系疾患							
	7	生殖器系疾患							
	8	まとめ							
	9								

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	心肺停止					学年	2
講師名	若山 博文、佐藤 友彦	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

心肺停止の判断や病態生理、心肺蘇生法などを中心に学ぶ。
最新のJRC蘇生ガイドライン及び心肺蘇生法の歴史を学ぶ。

講 義 内 容	1	総論～定義・概念
	2	総論～疫学・JRCガイドライン(1)
	3	総論～ウツタイン様式・JRCガイドライン(2)
	4	心肺停止に至る病態と原因～心肺停止に至る病態
	5	心肺停止に至る病態と原因～生体酸素状況
	6	心肺停止に至る病態と原因～主な原因疾患
	7	心電図分類～心室細動/無脈性心室頻拍
	8	心電図分類～無脈性電気活動
	9	心電図分類～心静止
	10	心肺蘇生中の循環～胸骨圧迫による循環発生の機序
	11	心肺蘇生中の循環～全身の循環・冠循環
	12	心肺蘇生中の循環～脳循環・胸骨圧迫の効果に影響する因子
	13	心拍再開後の病態～虚血による臓器障害
	14	心拍再開後の病態～再灌流障害
	15	心拍再開後の病態～心拍再開後の回復過程・回復に影響する因子
	16	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

単位認定

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	免疫/代謝/炎症					学年	2		
講師名	三戸 浩平			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
免疫不全や代謝異常・炎症の病態生理と救急法を学ぶ。									
講義内容	1	内分泌系～内分泌、内分泌器官							
	2	代謝・内分泌・栄養系疾患～総論、糖尿病とその合併症							
	3	代謝・内分泌・栄養系疾患～その他の代謝異常、内分泌疾患、栄養疾患							
	4	免疫(役割・仕組み・免疫系・アレルギー)1							
	5	免疫(役割・仕組み・免疫系・アレルギー)2							
	6	免疫疾患(アナフィラキシー・アレルギー・自己免疫疾患・膠原病)							
	7	感染症～総論、敗血症、結核、インフルエンザ							
	8	感染症～食中毒、輸入感染症、発疹性感染症、性病感染症、その他感染症							
	9								

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	薬剤投与					学年	2		
講師名	大石 悦子			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
心肺停止傷病者の病態に応じて薬剤投与を的確に施行する知識を身に付ける。また薬剤投与に伴う危険認識、人体の影響を学ぶ。									
講 義 内 容	1	薬物総論							
	2	薬物の有害作用							
	3	救急救命処置に用いられる薬剤							
	4	アドレナリン・乳酸リンゲル・ブドウ糖							
	5	使用頻度の高い薬(1)							
	6	使用頻度の高い薬(2)							
	7	輸液・輸血製剤							
	8	保存と保守管理							
	9								

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	臨床実習					学年	2
講師名	実習指導医	時間数	160	単位数	4	コマ数	80

教科目標

救急救命士の行う救急救命処置は専門的な知識及び技能を要するため、救急医療を担当する医師の指導の下、病院内に於いて救急医療に関連した知識の応用と、救急救命処置に係わる技能の習得を主体に、医療現場の見学と医行為の介助等を通じて診療の補助に対する理解を深める。

[illegible]

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 実習要領に基づき実習を行い、 各施設の指示に従い実習を実施する		

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	痙攣・脳圧亢進					学年	2		
講師名	池上 徹則			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
けいれん・脳圧亢進の病態とメカニズム及び救急処置法などを中心に学ぶ。									
講 義 内 容	1	重症脳障害～総論・発生機序・一次脳病変・二次脳病変							
	2	重症脳障害～頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・特殊な意識障害							
	3	意識障害～原因・随伴症候・判別を要する病態							
	4	意識障害～緊急度・重症度の判断・現場活動							
	5	痙攣～定義と概念・病態・種類・原因疾患							
	6	痙攣～随伴症候・判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動							
	7	失神～定義と概念・原因疾患							
	8	失神～判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動							
	9								

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞②

科目名	体育Ⅱ					学年	2
講師名	高橋 幸	時間数	60	単位数	2	コマ数	30

教科目標

体力を増強し、健全な身体発達を図れる。
消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。
就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。

講 義 内 容	1	説明(資機材・施設・準備体操・トレーニング方法等)
	2	ランニング
	3	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	4	マシンによる筋力トレーニング
	5	小隊対抗リレー
	6	ストレッチ
	7	ダッシュ連続による体力練成
	8	ランニング
	9	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	10	マシンによる筋力トレーニング
	11	小隊対抗リレー
	12	ストレッチ
	13	ダッシュ連続による体力練成
	14	ランニング
	15	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	16	マシンによる筋力トレーニング
	17	小隊対抗リレー
	18	ストレッチ
	19	ダッシュ連続による体力練成
	20	ランニング
	21	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	22	マシンによる筋力トレーニング
	23	小隊対抗リレー
	24	ストレッチ
	25	ダッシュ連続による体力練成
	26	ランニング
	27	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	28	マシンによる筋力トレーニング
	29	小隊対抗リレー
	30	ストレッチ

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	アリーナ及びインドアスタジアムを使用しトレーニングを行う			